

かみあがわちいきしげんほぜんすいしんかい

いよ

上吾川地域資源保全推進会（愛媛県伊予市）

- 本地域は、なだらかな傾斜の平野部に位置し、多くのほ場を有す。
- しかし、農業者の高齢化、担い手不足により、農地・水路等の維持管理が困難に。
- そこで、「上吾川地域資源保全推進会」の設立、多面的事業への取り組みを行うことで、地域として農地保全に尽力。
- 特に農道・水路の破損施設の補修（共同活動）について、積極的に非農業者の参加を進め、地域住民一体となり、農業を守っていく意識を醸成。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農地面積103.6ha
（田85.5ha、畑18.1ha）
- ・資源量 水路24.9km
農道9.6km
ため池18箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会、
子供会等
- ・交付金 約8.6百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

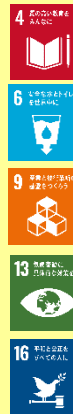
活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手の不足により、農道、水路、ため池等、農業水利施設の定期的な点検、補修を十分に実施することが難しくなっていた。



管理する水路は24.9kmに及ぶ

取組内容



- 農道、水路の破損箇所の補修（共同活動）について、積極的に非農業者の参加を進め、可能な限り工事を業者委託ではなく、直営で行うようにしている。

【非農業者参加直営施工件数】
R4 10件 R3 10件



地域住民一体となった農道の補修

取組の効果

- 破損箇所の補修を通して、農業や環境保全活動の大切さについて理解を深めてもらい、地域住民が一体となって自然環境を守っていく意識を醸成している。
- 主体的に自らの地域の農道、水路を点検・管理し、必要に応じ補修する風土が根付いている。



ため池の清掃活動



地域で植栽したコスモス



シバザクラ植栽を通じた地域住民の理解促

都市的地域



キーワード

農村環境の
保全・向上

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積246.9ha
(田246.1ha、畑0.8ha)
- ・資源量 水路24.9km
農道17.2km
- ・主な構成員 農業者、自治会、
土地改良区等
- ・交付金 約20.3百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

ていずいのうち みず かんきょうほぜんそしき さいじょう
禎瑞農地・水・環境保全組織（愛媛県西条市）

- 本地域は、西条市の東西の真ん中海辺に位置し、江戸時代における西条地区最大の干拓でできた土地に現在も多くの水田がある。
- 本組織は、平成19年に設立され、本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策を活用した水路・農道等の地域資源の保全管理と計画的な補修・更新に努めてきたが、農業者の減少や非農業者との混住が進む中で、水路の雑草管理やごみの投棄対策等の課題が浮き彫りになった。
- 地域住民の参画を得て、水路法面にシバザクラを植栽することで、市民の憩いの場として有名な場所になるとともに、地域資源としての水路等の価値や維持管理の重要性に関する理解が深まった。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、市内有数の水田地帯であり、保全管理する水路、農道も広範囲に及んでいる。
- 農業者が減少する中で、水路法面等の管理に係る担い手の負担が増大していた。
- 非農家との混住化が進むにつれて、水路等へのごみの投棄も目立ってきた。



植栽前の状況



植栽準備作業

取組内容



- 土地改良区と連携し、水路・農道等の計画的な補修・更新を実施している。
- 生態系保全や住民の理解促進のため、生物の生育状況調査や外来種駆除に取り組んでいる。
- 多くの地域住民の参加を得て、シバザクラの植栽や管理に取り組み、市民の憩いの場として期待される景観を維持している。



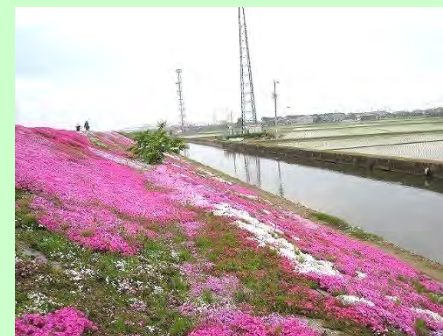
シバザクラの植栽準備



シバザクラの除草等

取組の効果

- シバザクラの植栽活動を通じて、地域住民の間で水路等の地域資源の維持管理に関する理解が深まり、令和4年度は延べ約720人の非農業者も参加し、活動を行った。
- 地域資源の維持管理に関する担い手以外の農家の協力が得られやすくなった。
- かつては問題となっていた水路へのごみの投棄が抑制されている。



シバザクラの開花

みやなるすいりほぜんはん

せいよ

宮成水利保全班（愛媛県西予市）

- 本地域は、西予市野村町の中央部に位置し、1級河川肱川に面した地帯である。構成員の高齢化による活動維持が困難となる中、平成30年7月豪雨災害により甚大な被害を受け、災害からの復旧が喫緊の課題となった。
- 以前から本交付金を活用し、農用地や農業用施設の保安全管理を行ってきたが、平成30年度、令和元年度に災害による特例措置を申請し、被災箇所の復旧を実施。
- 特例措置を活用し、災害復旧を第一に水路の泥上げ等を中心とした活動を行ったことで、農業生産活動が再開できた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積7.0ha
(田6.9ha、畑0.1ha)
- ・資源量 水路2.3km
農道0.5km
- ・主な構成員 農業者

・交付金 約0.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 高齢化・過疎化の進行により、担い手が不足し、農地や水路等の保全活動が難しくなっている。
- 平成30年7月豪雨災害により農地や農業設備に甚大な被害が出ており、復旧作業が急務となっていた。



被害を受けた農地や設備

取組内容



- 災害による特例措置を活用し、水路の泥上げ等、被災箇所の復旧に取り組んだ。



復旧作業の様子

取組の効果

- 水路の泥上げを優先的に取り組み、災害復旧作業を行い、農業生産活動を早期に再開することができた。
- 復旧実績(概算)
 - ・水路泥上げ L=1,000m
 - ・雑物除去 7,000kg



水路の泥上げ



女性リーダー主導による多様な組織の参画

中間農業地域



キーワード

農村の地域「リミ」の維持・強化へ

とまりかんきょうほぜんきょうぎかい まつやま

泊環境保全協議会（愛媛県松山市）

- 高齢化・過疎化の進行により、農業者のみでは農用地や水路・農道・ため池等の適切な保全管理が難しくなっていた。
- 地元住民と都市住民の交流などの地域活性化の取組を展開していた地元婦人会が中心となり、現構成員に対して直接足を運んで事業の制度やメリットを説明して回った結果、「泊環境保全協議会」の発足に至った。
- 本組織の取組は、女性リーダー達の主導の下で農業者や地域住民、女性会、子供会、その他多様なグループが参画する地域ぐるみの活動として定着し、農村地域コミュニティの維持・強化に大きく貢献している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積65.6ha（畑65.6ha）
- ・資源量 水路2.5km
農道5.0km
ため池7箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会、女性会 等
- ・交付金 約1.9百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の減少や高齢化が進行し、農業者のみでは農用地や水路・農道・ため池等の地域資源の適切な保全管理が難しくなっていた。
- 一方で、松山市内から近く、海や山の自然を一度に体験できる島の特徴を活かして、島の活性化に取り組む女性グループ等の活動が盛んであった。



取組内容



- 共同活動や各種行事の計画策定等は、「地域活性化団体しまいる※」からの参画を得て実施。

(※高校時代からボランティアで興居島を訪れていた学生が、大学生となってからも興居島での活動を続けたいと立ち上げた団体)



- 地域資源の保全管理や環境保全活動等について、地域内外の住民・組織と意見交換会を開催。
- 女性リーダー主導の下、農業者と地域住民が一体となり、島の絶景スポット周辺の農用地、農道へ景観作物の作付等を実施。



意見交換会



景観作物の作付

取組の効果

- 学生との触れ合いにより“元気がもらえる”と好評
- 住民組織との連携から、活動の幅が広がり、毎年11月に、多くの都市住民が来島する交流会を開催している。
- 平成30年7月豪雨の際には、農道・水路の土砂撤去に地域住民も積極的に参加し、早期復旧に尽力した。
- 農業者の意見交換の機会が増え、人・農地プラン実質化についての話し合いが円滑に進んだ。



大学生グループの参画



地域住民との交流



非農業者の参加による担い手の負担軽減

都市的地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積14.9ha
(田14.6ha、畑0.3ha)
- ・資源量 水路8.6km
農道2.6km
ため池2箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会、
子供会 等
- ・交付金 約1.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

しもあがわだいいくちいきほぜんきょうぎかい

いよ

下吾川第1区地域保全協議会（愛媛県伊予市）

- 本地域は、市街地近郊に位置し、西部の住宅地に併存する農地と東部の農地が約半々で米・麦、野菜などを中心に栽培。
- 非営農世帯の転入者増加等により、次第に農業資源に対する価値観が変化し、地域資源の保全が困難になってきた。
- このため、地域内の交流を図るためにヒマワリの植栽活動を実施している。また、年2回、非農業者も一緒に水路・農道の清掃等を行い、農業施設の保安全管理を推進。
- これにより、地域一体となり農業資源を守る意識の醸成、農業者の負担軽減に繋がっている。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手不足、非営農世帯の転入者増加等により、農地・農業用水等の資源に対する周辺環境への価値観が変化し、次第に適切な保全が困難になっている。



農業者だけでは施設の保全が困難

取組内容



- 地域内の交流を図るために、景観形成活動としてヒマワリの植栽活動を実施。
 - 水路・農道の清掃は、年2回実施しており、役員（農家・非農家）の参画を得て実施。
- 【清掃活動の非農業者参加者数】
R3: 29人 R4: 35人
- 【植栽活動の非農業者参加者数】
R3: 50人 R4: 100人



子供会と連携した景観作物の植栽

取組の効果

- 景観作物の植栽は、毎年定期的に行うことで、恒例行事・文化として地域に根付いており、地域内の子どもからお年寄りまで毎年100名程度が参加している。
- 子供会とも連携することで多数の参加人数を維持しており、農業及び環境保全活動の重要性について理解を深め、自分たちの街を自分たちで保安全管理していくという意識の醸成に繋がっている。



ヒマワリの開花状況



県独自の取組みによる施設の長寿命化

中間農業地域



キーワード

都道府県独自の取組

にしやまだみどりほぜんはん

せいよ

西山田水土里保全班（愛媛県西予市）

- 本地域は、広大な水田を有する宇和盆地に位置し、水稻を中心とした営農が行われている。平成13年にほ場整備事業を行い、パイプラインの整備を進めることができたが、整備後約20年経過し、パイプラインの弁類等が老朽化している状況。
- そこで愛媛県が要綱基本方針に独自に追加した長寿命化のメニュー「水路等の更新」の「空気弁、仕切弁等の更新」において、パイプラインの空気弁の更新を実施することとした。
- 県独自の取組を活用し、老朽化した空気弁の更新を行うことにより、農業用施設の計画的な維持・保全が可能となり、安定した農業生産基盤を確保することができた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積71.8ha
(田69.3ha、畑2.5ha)
- ・資源量 水路23.0km
農道9.3km
ため池3箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会
- ・交付金 約6.1百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、水稻を主体とする地域で、平成13年にほ場整備を実施し、パイプラインの整備ができた。
- しかし、ほ場整備実施後、約20年近く経過し、パイプラインや空気弁等の老朽化が進んでいる。



活動地域

取組内容



- このような中、資源向上支払(長寿命化)に県が独自に追加したメニューを活用し、老朽化した空気弁の更新に取組んでいる。



空気弁更新の様子

取組の効果

- 県独自の取組を効果的に活用して、令和元年～4年の間に老朽化した空気弁等5箇所について更新しており、安定した農業生産基盤の確保につながっている。

空気弁更新作業



空気弁更新完了



女性の積極的な参画の推進

平地農業地域



キーワード

若者女性などの
多様な参画

とくまるちいきしげんほぜんすいしんかい

まさき

徳丸地域資源保全推進会（愛媛県松前町）

- 本組織は、水路・農道などの農業用施設の管理や農村環境向上活動に地域住民一体で取り組み、活動を定着化させることで、農村コミュニティの活性化を図ることを目的として、平成19年より本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策による取組を開始した。
- 女性を中心に構成されている「徳丸みどり会」と連携が図られており、「徳丸みどり会」の女性役員2名が本組織の役員と参画している。「徳丸みどり会」は平成7年に発足した地元の組織であり、地域の花壇に植栽を行っている。本交付金による取組をきっかけに、構成員として加わり、地域の景観形成を担っている。
- これにより、より一層の農業用施設の保全管理及び地域の景観形成を行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積74.6ha
(田72.4ha、畑2.2ha)
- ・資源量 水路14.7km
農道3.2km
- ・主な構成員 農業者、自治会、
徳丸みどり会
- ・交付金 約5.5百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、農業者の高齢化が進み、農地や農業用施設の適切な保全管理が困難となっている。そのため、農業者だけではなく、多様な人材及び地域住民が一体となって、保全管理を行っていく必要がある。
- また、ほ場整備から数十年経過しており、農業用施設の老朽化が進んでいることから、機能診断を行い、適切に補修していく必要がある。

年度	農家人口
平成21年度	331人
令和3年度	190人

徳丸地区 農家人口推移

取組内容



- 女性中心に構成される徳丸みどり会による植栽活動
- 農道・水路の草刈り及び水路の泥上げ
- 農業用水路や附属施設の補修・更新



徳丸みどり会による植栽活動

取組の効果

- 徳丸みどり会による植栽活動では、地域内に設けた花壇に植栽や除草活動を通じて維持管理に取り組み、地域の景観形成を行った。また、役員として参画することで他の地域の担い手との意見交流を行う機会を得た。
- 一斉清掃(水路泥上げの活動等)の参加者数は、平成20年度には355人だったが、令和4年度には約420人となり、活動への参加者が増加した。また、非農業者を交えた共同活動は地域の交流の場となっており、農村コミュニティの活性化に繋がった。



水路の泥上げ



農業体験学習を通じた地域資源の継承

中間農業地域



キーワード

連携
教育機関との

もくしょしげんほぜんはん

せいよ

杵所資源保全班（愛媛県西予市）

- 本地域は、広大な水田を有する宇和盆地に位置し、水稻を中心とした営農が行われている。
- 農業者の高齢化や次世代の新規農業者の参入が少なく、農業者だけでは農用地や農道・水路・ため池等の農業用施設の適正な維持管理が困難になってきており、地域住民と一体となった保全管理を推進していく必要がある。
- 地元の小学校と連携し農業体験学習を実施しており、農業・農村環境への子供たちの関心を高め、地域資源を次世代へ継承する。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積24.5ha
(田23.3ha、畑1.2ha)
- ・資源量 水路8.4km
農道1.7km
ため池4箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会
- ・交付金 約2.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手不足により、農用地や水路・農道等の農業用施設の適正な維持管理が難しくなっている。
- また、少子化や過疎化により地域に残って農業に携わる者が少なくなっており、地域への関心が薄れてきている。



杵所集落の風景

取組内容



- 地元の小学校と連携し、総合学習の時間を活用した農業体験を実施している。
- 5年生の児童を対象とし、地域内の水田で農業者から作業の方法を教わりながら、田植えや稲刈りなどを体験している。



田植え体験

取組の効果

- 農業体験学習を通じて、子どもたちからは「お米をすることの大変さを実感した。毎年、稲の育成に苦労をされ、お米を作っておられる農家の方に感謝です。」といった声が聞かれ、農業・農村への関心が深まっていることがうかがえた。



稲刈り体験



地域の子どもたちと共に生態系保全

都市的地域



キーワード

生態系保全、環境保全
型農業に関する取組

連携
教育機関との

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積183.9ha
(田180.7ha、畑3.2ha)
- ・資源量 水路 24.7km、農道 11.8km
ため池 4箇所
- ・主な構成員
農業者、土地改良区、自治会、婦人会、PTA、水利組合、長寿会 等
- ・交付金 約7.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

かんべちくかんきょうほぜんきょうかい さいじょう
神戸地区環境保全会 (愛媛県西条市)

- 神戸地区は西条市内のほぼ真ん中、うちぬきの源流となる加茂川中流左岸に位置し、水の豊かな地区である。
- 本活動組織は、平成19年に設立され、これまで水路や農道の維持管理を行ってきた。しかし、農業者の減少による耕作放棄地の発生や水路の管理者不足が顕著になっている。また、近年の宅地造成等によって地区外からの移住者が増加し、農業者と非農業者の交流も減少している。
- これらの課題の解決のため、小学校と連携し、児童とともに地域内における水生生物の生息状況調査を実施。自然環境や農業・農村の持つ多面的機能、生物多様性の重要性を認識してもらうとともに、子どもから大人へとその興味関心が拡大していくことを狙いとしている。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や減少により農業者のみでの水路、農道の維持管理が困難になっている。
- 地域外からの移住者が増加し農業者と非農家との交流が減少している。
- 農業者の高齢化等により耕作放棄地の発生が懸念される。
- 水路、農道の老朽化に伴う、水路からの漏水や舗装の陥没などに対する苦情の増加



農業者による水路清掃状況

取組内容



- 水路や農道の維持管理は、農業者だけでは管理の負担が大きく不可能なため、自治会と協力し維持管理を行っている。
- 地域の小学校と連携し、生き物調査を行っている。毎年調査した生き物を集計し、環境の変化や生物多様性について勉強している。学校に直接相談したことで実現した。活動をきっかけに自然の豊かさや生物多様性の重要性を知ってもらうことにより、家庭内でも地域の自然環境について関心を持ってもらう。
- 耕作放棄地の対策として、農業者に対する意向調査、現地調査を行い、担い手への集積を図っている。
- 水路、農道の老朽化箇所は、長寿命化で補修・更新を行っている。

取組の効果

- 地域資源の保全管理が適切になされることにより、農業に取り組みやすい環境づくりが来ている。
- 水生生物の生息状況の調査を通して、児童からは生き物についてもっと知りたくなった、生き物が住みやすい水路にしたいといった声が聞かれ、普段から地区内の生き物への興味、関心が高くなりつつある。
- 活動当初に比べ参加人数も増加傾向にあり、令和4年には863人での水路や農道の清掃を行い、農家・非農家の間での交流が広がりつつある。



児童との生きもの調査



講師による生き物紹介



デジタル技術(ラジコン式草刈機)の導入

うわじま

中間農業地域



キーワード

デジタル技術
の活用

組織の広域化
・体制強化

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積561.5ha
(田503.3ha、畑48.8ha、草地9.4ha)
- ・資源量 水路109.0km
農道54.0km
ため池107か所
- ・主な構成員 農業者個人、自治会、学校・PTA等
- ・交付金 約47.8百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の後継者不足、高齢化により、作業参加者が減少し、農用地等の維持管理が困難な状況になりつつあった。
- 高齢の参加者が多いため、草刈作業中の熱中症や機械操作による接触事故のリスクが高い状態であった。



接触事故の
危険性大

草刈状況(ラジコン式草刈機導入前)

取組内容



- 草刈作業におけるデジタル技術の活用(ラジコン式草刈機の導入)
- 購入前に2種類の機械をリースするなどし、性能や操作性の検証を行ったうえで本格導入。
・R3年度…機械リース、操作研修、試験運用
・R4年度…本格導入

※実証試験に基づく効果試算(最大値)

	一般的な草刈機	ラジコン式草刈機
作業時間	2時間×30人×60ヶ所 ×年2回=7,200時間	2時間×5人×60ヶ所 ×年2回=1,200時間
人件費	日当1,000円×7,200 時間=7,200,000円	日当1,000円×1,200 時間×1,200,000円
機械代	—	4,000,000円
合計	7,200,000円	5,200,000円

取組の効果

- 約40ヶ所のため池で約70時間使用
- 例年実施しているため池の草刈りにおいて、作業に要する時間と人件費の大幅な軽減が図られた。
(日当 R2年度比△2,000千円)
- 作業時間短縮により夏場の作業における熱中症のリスクが軽減されたほか、作業人数の削減により、草刈機の接触事故のリスクが低減した。



操作研修



草刈状況
(ラジコン式草刈機
導入後)



かみみたにちいきしげんほぜんすいしんかい

いよし

上三谷地域資源保全推進会（愛媛県伊予市）

- 本地域は平地部に位置し、米・麦・野菜などを中心に栽培。
- しかし、農業者の高齢化、担い手不足により、農地・水路等の維持管理が困難に。
- そこで、平成19年に本組織を設立し、本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策をを活用した取組を開始し、地域全体で地域資源の保管理を行っている。
- 特に、デジタル技術を活用することで、今まで対応に苦慮していた場所も適切に維持管理できている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積95.3ha
(田68.9ha、畑26.4ha)
- ・資源量 水路28.2km
農道11.9km
ため池5箇所
- ・主な構成員 自治会、女性会、子供会等
- ・交付金 約7.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手の不足により、農道、水路、ため池等、農業水利施設の定期的な点検、補修を十分に実施することが難しくなっていた。



管理する水路は28.2kmに及ぶ

取組内容



- ラジコン式草刈機を導入し、農道の草刈りを実施している。
- 推進会役員共有のクラウドに、農業用施設や草刈り時に見えにくい障害物の位置情報を反映し、施設が故障した際の体制構築や、草刈り時の事故防止に繋げている。



ラジコン式草刈機操作教育練習



クラウドを利用した情報の共有

取組の効果

- 事故の可能性が高い場所でも、安全に、かつ少人数で草刈りを行うことができた。
【草刈り参加人数】
導入前(R2): 19人⇒導入後(R3, 4): 7人
- 農業者から推進会に水路からの漏水の通報があった際に、破損場所及び関係施設の特定が素早くでき、速やかな修繕やバックアップ水源の確保ができた。



ラジコン式草刈機でため池法面の草刈りを実施



地区同士の連携による地域農業の保全

山間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

農業用施設
の機能増進

農村環境の
保全・向上

農村の地域・強化へ
の貢献

ノウハウの蓄積

組織の広域化
・体制強化

とさてんくうのさとほぜんかい
土佐天空の郷保全会（高知県長岡郡本山町）

ながおかぐんもとやまちょう

- 本組織は、農業の担い手の高齢化や減少、農業用施設の老朽化など本山町の各地区が抱える課題に対処するため、令和2年に設立された。
- 本山町農業公社と18地区で構成される町内1組織の活動組織である。
- 本山町農業公社を事務局とした体制への集約により、従来単独では活動ができなかった小規模地区も参加できるようになった。本組織設立以前は町内1地区(10ha)のみであったが、令和3年度には18地区(195ha)とほぼ町全域での取り組みへ発展した。
- これにより、指定棚田地域となっている6つの棚田地域を含む農地の維持や観光資源としての景観の改善につながっている。



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積195ha
(田183ha、畑12ha)
- ・資源量 水路57km
農道42.4km
- ・主な構成員 農業者、農業公社、
地域住民
- ・交付金 約15百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 担い手の高齢化・減少
従来、農家による水路の維持管理などにより農地が守られてきたが、高齢化により年々参加者が減少していた。
- 農業用施設の老朽化・損壊
山間部のため、水路・農道が長く、老朽化や災害により損壊が発生しても人手や資金不足のために修繕が難しい状況であった。また、舗装されていない農道・水路も多く、管理に多くの労力がかかっていた。



老朽化した農道



土水路

取組内容



- 町全域での取り組み
農業公社を事務局として事務を集約化し、各地区の活動の充実を図った。また、地区ごとに委員を配置した町内1組織の体制とすることで、連携強化を図った。



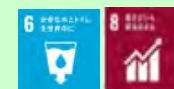
委員が集まった会議の様子



- 優先順位の高い長寿命化工事の実施
交付金の集約により、各地区への面積に応じた配分に加え、優先順位により配分する枠を設けることで、必要な長寿命化工事を小規模地区でも優先して実施できるようにした。

取組の効果

- 地区の住民も加わり、泥上げ、植栽活動が実施され、農地の維持や景観の改善につながった。



- 事務支援システムの導入やSNSの活用により、事務の効率化が進み、役員の負担が大幅に軽減した。



事務支援システム

- 集まる場が形成されたことで、地区間で人の融通や施設管理のノウハウを共有できた。また、補修・更新工事を以前に比べて多く(17件)実施できた。小規模の4地区においても、必要性の高い工事が実施できた。



道路舗装



住民参加による農地の維持と地域の振興

中間農業地域



キーワード

地域資源の
保全・管理

農村環境の
保全・向上

農村の地域コミュニティの
貢献

地域外からの
人の呼び込み

ひだかむらみずとかんきょうをまもるかい たかおかぐんひだかむら
日高村水と環境を守る会（高知県高岡郡日高村）

- ほ場整備事業で整備された農地を管理していた日下・加茂土地改良区の解散にとともに、農地の適切な維持・管理と周辺の農村環境を守るために平成25年に設立された。
- 本組織は、14の用排水組合、自治会、女性の会、老人クラブ、消防団、NPO法人等で構成される村内1組織の活動組織であり、面積カバー率も82.3%と高い。
- 地域の小学校と連携した農業体験や福祉施設と連携した地域イベントの開催により、農地保全に対する住民意識の向上や地域の振興が図られた。
- これにより、水稻や特産の高糖度トマトを生産する農地の維持につながっている。



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積127ha
(田126ha、畑1ha)
- ・資源量 水路37.2km
農道11.4km
- ・主な構成員 農業者、用排水組合、自治会、女性の会等
- ・交付金 約10百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 地域農業を守る体制の構築
平成24年10月にほ場整備された農地を管理していた土地改良区が解散することとなり、農地や農村環境を今後どう守っていくのかを地域の農業者等を中心に話し合いが行われた。

取組内容

- 稲刈り後の田んぼや遊休農地を活用したイベント開催
「花いっぱい運動」として地域住民や福祉施設と協力して村花のコスモスの種まきを行い、開花期に花見のイベント「コスモスまつり」を開催した。



コスモスの種まき

- 遊休農地を活用した農業体験
地元の小学生による田植えや稲刈りの農業体験を実施した。



小学生の農業体験

取組の効果

- コスモスまつりは、村内外から約1,000人を集める村の一大イベントとなった。特産の高糖度トマトをPRする「日高村オムライス街道」と合わせて、村の活性化につながった。



コスモスまつり

- 地元の小学生や福祉施設、村外からの観光客との交流を通じて、農地保全に対する意識が地域全体で向上した。

- 事務員に事務を集約したことで、役員や構成員の事務負担が軽減でき、実践活動充実につなげることができた。

- 村ぐるみでの取組
用排水組合のほか、自治会や女性の会などの地域住民も参加する体制の構築により、地域との連携を図った。

- 事務員の雇用による負担軽減
事務員を専従で雇用し、会計事務や会合の日程調整、連絡等に関する組織の負担軽減を図った。



住民参加による農地の維持と地域の振興

中間農業地域



キーワード

地域資源の
保全・管理

農村環境の
保全・向上

教育機関との
連携

とかのちくのうそんかんきょうをまもるかい たかおかぐんさかわちょう
斗賀野地区農村環境を守る会（高知県高岡郡佐川町）

- 農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加、農道や水路の維持管理といった課題に対して地域全体で農地や農村環境を守っていくことを目的として、平成30年に設立された。
- 本組織は、9集落で構成される活動組織である。
- 『NPO法人とかの元気村』を事務局とした体制への集約により、様々なイベント開催を通じ地域との関係づくりの一助となることで、交流人口の拡大につながり、農家、非農家を問わず地域全体での取り組みに発展した。
- これにより、水稻を中心にニラや生姜などの農地の維持につながっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積72ha
(田71ha、畑1ha)
- ・資源量 水路30.8km
農道5.5km
- ・主な構成員 農業者、地域住民
- ・交付金 約17百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 担い手の高齢化による耕作放棄地の増加
ほ場整備された農地を管理していた土地改良区等が解散することとなり、農業だけでなく、環境保全や地域活動を今後どう進めていくのか地域住民を中心に話し合いが行われた。



- 地域ぐるみでの取組
イベント開催を通じて、様々な世代(若者から子ども達を含む)が参加し、地域との関係づくりの一助となっている。



- 景観形成
景観形成を図るべく、農家、非農家で畦畔等を利用し、ノカンゾウの植栽に取り組んだ。



ノカンゾウ

取組内容



- 教育機関との連携
地元の保育園や小学校と連携した食育活動の一環として、農耕支援を年間通じて実施。田植え・稲刈り体験や、芋掘り体験、地産の昔野菜(まきのキュウリ)の栽培といった取り組みを指導した。



保育園児の芋掘り体験

- 農事組合法人との連携
高齢化等により作付けが困難となる農地が発生するため、農事組合法人を設立し、草刈りや農作業受委託を実施。

取組の効果

- 『わかもの交流会(Uターンや移住者を含めた地域内の交流イベント)』は、地域の魅力、人と人がつながることの楽しさを感じてもらうことで、共同活動への若者の積極的な参加(約5名ほど)にもつながっている。



わかもの交流会

- 地元の保育園児や小学生、福祉施設等と連携することで、交流人口の拡大につながり、農家、非農家を問わず、地域ぐるみでの農地保全に対する意識が向上した。

- 作付けが困難になった農地を利用して飼料用米等を耕作し(約10ha)、耕作放棄地の発生防止につながっている。



飼料用米稲刈り